

音楽研究会 部会記録

日時	平成29年9月6日(水) 15:30~16:45			
部会名	鑑賞部会		主任	曳田 裕子(白幡小)
参加数	12名	司会	澤 由美(日吉南小)	記録 御子神 光子 (すすき野小)

鑑賞部会テーマ

音楽のよさや面白さ、美しさを自ら感じ取り、聴き味わう鑑賞活動

研究仮説

子どもの実態や教材分析をもとに学習展開を工夫することにより、子ども自らが音楽の面白さ、美しさを感じ取り、聴く喜びを感じ取ることができる。

(研究内容)

○実践提案Ⅰ(7月の実践の課題を受けて) 提案者:塚本 靖則先生(岡津小)

<子どもの実態・授業までの経緯>

曲の構造は理解できる。

鑑賞の学習の前に、リコーダーで **イ** の旋律を演奏。

ア の旋律には、なじみがないようだった。

1時間扱い(6月の提案)から、今回、2時間扱いとした。

「聴きたい」と思えるような学習展開や動機付け 社会的・文化的価値付けの視点

(7月の提案と同様に)

<初めて聴いたときの反応>

曲の魅力について全体で出し合った。曲の特徴をよく感じ取り、とらえていた。

転調には気付かなかった。

<中心的に扱う[共通事項]>について

第2時に扱う[共通事項]を音の重なり 変化としたので第1時は、速度 旋律 強弱として、学習を進めたが・・・どうか。

→ 音の重なりを扱う方がよかったのではないか。

→ 初めて聴いた子どもたちの感想と学習プリントの内容を結びつける(整合性をもたせる)とよかったのではないか。

<成果と課題>

7月実践提案で練り直した点と9月の実践での成果について

・聴きたいと思わせる導入の工夫(曲そのもののよさや価値)

→聴くことに目的意識をもつことで、楽曲に関心を寄せ、主体的に聴く姿を引き出すことができた。

・時間配分、指導計画のこと 2時間計画ではどうか

→2時間扱いでよかった。

・1時間の中で何回も聴くために→部分的に 視点を与えて など

→曲のよさについて、子どもたちがよく感じ取っていた。

・一人ひとりの聴き方の変容をとらえる手立てについて

→自分の聴き方の変容を自覚することで、自己肯定感がもてる。

課題として出されたことについて

- ・この曲の「魅力」は何か。イの旋律なのでは？
 - イの旋律だけではなく、アの旋律との対比、その他、様々な要素が関わりあって曲の魅力になっている。
- ・魅力という言葉でまとめていいのか。魅力とは何か？
 - 「曲の特徴やよさ」というとらえ
 - 旋律でも強弱でも音の重なりでも、それを窓口にして、自分なりの曲のよさや演奏のよさを感じ取っていくことができればよい。「魅力は〇〇」とまとめるということではないのでは・・・
 - 何を魅力として、聴かせるかは指導者としてもっておくべき。

○12月 研究授業の指導案構想 山下 明子先生（下野庭小）の指導案をもとに話し合い

- ・教材性や魅力
- ・「待ちぼうけ」2時間扱い
- ・第1時…曲のよさ 第2時…表現の工夫 演奏のよさ
- ・学習プリント どんなものにしたらよいか。
- ・歌詞 言葉のリズムをとらえさせる。
- ・国語科「からたちの花」との関連（国語科の指導内容との関連）
- ・「待ちぼうけ」を国語科で扱うことも考えられる。

○次回（10月）は、実践提案Ⅱ（授業研事前実践）